

# 宮城の間伐材で「木のうちわ」

東日本大震災被災地の間伐材を使った「木のうちわ」が人気を集めている。復興を支援しながら節電にも役立つエコ商品として注目度は高く、林野庁も活用を呼びかけている。

奈良・吉野杉のブランド復興や

森林保全などに取り組んでいる企業運営会社「ハートツリー」(東京)が立案。スギ間伐材を建材などに有効活用してきた宮城県登米市の登米町森林組合と協力し、5月から本格的に生産を始めた。

うちわは2種類あり、片面に厚



宮城県登米市産のスギ間伐材を活用した「木のうちわ」(東京都港区の「ハートツリー」で)



紙を貼り、親指を入れる穴を開けたタイプ(縦18センチ、横19センチ)が1枚180円から。柄付き(縦33センチ、横21センチ)は同698円から。100枚単位で受注し、別料金で企業ロゴ

## 節電+支援復興で寄付上げ売り

などの印刷もできる。

近畿や九州のメーカーなどから引き合いがあり、製品PRなどで配ったり、ホテルが宿泊グッズに取り入れたりと多方面で活用。地域イベントで、子どもが絵を描く画材用にと買い求めるケースもあり、5万枚の販売予定だったが、現在、増産を検討している。

一方、林野庁も6月中旬から、「木づかい(気遣い)で応援しよう!」を合言葉に、木製うちわの購入を農林水産省内で呼びかける「木のうちわ大作戦」を展開中。すでに本省職員ら約2000人が、家庭や職場で使っているという。

売り上げの一部は日本財団の被災地支援基金に充てる。ハートツリー担当責任者の興津世緑さん(35)は「うちわ以外の商品開発も行い、未永く取り組みたい」と話している。